

平成 25 年度「教育・研究図書有効活用プロジェクト」

年 次 報 告 書



公益財団法人

日本科学協会

教育・研究図書有効活用プロジェクト

はじめに

日本科学協会の「教育・研究図書有効活用プロジェクト」は、平成 11 年度に立ち上げた国際交流プロジェクトで、中国への図書寄贈、「日本知識大会」、「作文コンクール」、日本招聘など広範な事業展開により、国際理解の深化と友好交流の促進を図っている。

日中関係は本年度も依然として緊張状態にあり、多くの日中交流事業が停滞していたが、本プロジェクトは、両国関係者から多くの賛同と支援を得、日中の文化交流を民間レベルで継続することができた。

図書寄贈事業については、日本国内で 171,552（累計約 3,657,000）冊余の図書を収集し、中国の図書寄贈対象大学等に合計 245,013 冊（累計 3,250,488）冊の図書を寄贈した。また、「笹川杯作文コンクール」については、日中情勢を考慮して中国語版「コンクール」の開催を見送り、日本語版「コンクール」のみの開催となったが、中国全国の 135 大学（21 省、市、自治区）の日本語学習者等から 1,727 点の作品応募を得た。

さらに、「笹川杯全国大学日本知識大会」及び「笹川杯全国大学日本知識大会・作文コンクール」優勝者等の日本招聘については、日中情勢を考慮し平成 25 年に延期して実施したが、緊張状態が続く中、日中民間交流事業として大きな成果と反響を得た。

ここに、平成 25 年度「教育・研究図書有効活用プロジェクト」事業について取りまとめ、全般的な実施状況を報告する。

平成 26 年 3 月 31 日

公益財団法人日本科学協会

教育・研究図書有効活用プロジェクト室

目 次

1. 図書収集	3
2. 業務改善	4
3. 図書寄贈	4
4. 「笹川杯作文コンクール 2013」の開催	6
5. 「図書寄贈式」の実施	6
6. 「笹川杯全国大学日本知識大会 2013」の延期開催	6
7. 「笹川杯全国大学日本知識大会・作文コンクール優勝者日本招聘」の延期実施	6
8. 目標達成	7

1. 図書収集

(1) 図書収集活動

良質な図書を効率的に収集するため、下記の方法により出版社や企業、大学・研究機関、公共図書館、個人等に協力を呼びかけた。

	提供依頼	活動内容		
		時期	方法	件数
1	出版社への依頼	9月	文書	302
2	出版社への依頼	1月	文書	298
3	専門図書館協議会関東地区協議会への依頼	9月、2月	FAX、e-mail、HP掲載	276
4	全国の国公立大学図書館への依頼	8月、1月	e-mail	107
5	東日本の私立大学図書館への依頼	8月、1月	e-mail	236
6	首都圏（1都3県）の地域図書館への依頼	8月、1月	e-mail	193
7	専門図書協議会機関誌（隔月刊）への広告掲載	1.2月号	広告掲載	
8	当協会 web サイト・ブログによる呼びかけ	通年	告知	
9	既・新規提供者への依頼	通年	訪問、電話、e-mail	

(2) 図書収集実績

約 171,500 冊（提供件数：延べ 353 件）

前記（1）の通り積極的な収集活動を行った結果、多方面からの協力が得られ、171,552 冊の図書を収集した。このうち、新刊図書或いは新刊図書と同等な図書は 32,657 冊である。（出版社提供：28,773 冊、その他の提供：3,984 冊）

なお、提供者別提供冊数・提供者数は、表-1、グラフ-1 のとおりである。

提供者別図書提供冊数・提供者数（表-1）

区分	冊数（A）	（A）の全体に占める割合	提供者数（B）	（B）の全体に占める割合
企業	25,851	15.1%	142	40.2%
大学	15,298	8.9%	22	6.2%
出版社	28,773	16.8%	48	13.6%
公共機関	60,760	35.4%	42	11.9%
公益法人	32,323	18.8%	69	19.5%
個人	8,547	5.0%	30	8.5%
合計	171,552	100%	353	100%

注）提供者数は、延べ件数である。

(3) 収集図書の分野

収集図書 171,552 冊の分野別収集冊数・提供者数は、表-2 及びグラフ-2 のとおりである。人文系が 155,624 冊（91%）、理工系が 6,059 冊（4%）、医学系が 9,871 冊（6%）であり、分野によって大きな偏りが見られた。これは、寄贈図書に対する中国側の受入れ基準の高さにも分野によって偏りがあるため

ある。

特に、技術の進歩が急速な理工系、医学系の図書については、受入れ基準が非常に高い（ここ5年以内の出版）ため、中国側のニーズに沿った図書の収集が困難であり、結果的に両分野の図書の収集冊数はごく少ないものとなった。他方、受入れ基準が比較的緩やかな人文系図書については、収集が比較的容易であり、収集図書の大半を占める結果となった。

分野別提供冊数・提供者数（表-2）

区分	冊数（A）	（A）の全体に占める割合	提供者数（B）	（B）の全体に占める割合
人文系	155,624	91%	266	75.4%
理工系	6,037	4%	73	20.7%
医学系	9,891	6%	14	4.0%
合計	171,552	100%	353	100%

注）提供者数は延べ人数である。

(4) 収集図書の活用率向上

収集図書の活用率（寄贈対象図書数/収集図書数）の向上を図るため、図書提供者の協力を求め、次のような方法で図書を収集した。

- ① 図書の提供冊数が多い場合、事前に提供者の了解を得、現場において実物を確認しながら中国への寄贈の適・不適を判断基準に選択して収集した。
- ② 提供図書に関する既存のリストがある場合、提供者から事前に入手し、中国への寄贈の適・不適を判断基準にリスト上で選択して収集した。
- ③ 主に個人提供者に対しては、寄贈対象図書の基準（内容、発行年、外観等）を説明し、これに沿った図書の提供を依頼して収集した。

2. 業務改善

(1) 中継機関設置による図書の中継寄贈

図書の寄贈については、中継機関経由による図書の中継寄贈により、日中両国における業務の簡素化・円滑化と経費の節減を図った。

具体的には、寄贈対象42大学・1研究機関等への寄贈図書を經由港（上海港、天津港）により大別するとともに、各港にそれぞれ1つの中継機関（上海海事大学、中国国際贈書中心）を設置し、各寄贈図書を集約して輸出するというもので、輸出入業務に精通している中継機関が、輸入通関を始め受入れに関する一切の業務を実施するとともに、受入先別配送の手配も担当することにより、寄贈図書受入れの簡素化・円滑化に大きく貢献している。

3. 図書寄贈

(1) 寄贈実績

本プロジェクトが策定した「図書寄贈方針」に基づき収集図書を寄贈先毎に選定し、各寄贈先と調整のうえ図書寄贈計画書を策定し、表-3のとおり送付した。

- ・寄贈冊数合計：245,013冊
- ・寄贈回数合計：11回

平成 25 年度図書寄贈実績 (表-3)

寄贈対象大学	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	25年度	累計
	2013年6月	2013年6月	2013年6月	2013年8月	2013年10月	2013年10月	2013年12月	2014年1月	2014年2月	2014年3月	2014年3月	合計	
黒龍江大学		89					34		33		48	204	148,221
哈爾濱医科大学					88	49	2,578		109		48	2,872	54,606
黒龍江東方学院			15,293		2,399	60	1,029		102	207	48	19,138	179,035
齊齊哈爾大学							20		75		48	143	73,151
延辺大学					534		201		585	333	48	1,701	132,800
吉林大学	2,635				5,096	178	213	9,848	452	2,647	96	21,165	182,937
長春師範大学				434	5,527	1,858	1,372		480	481	48	10,200	125,678
中国医科大学		108					1,331		207		48	1,694	103,889
大連外国語大学		1,506		9,771		190	2,452		588	731	48	15,286	359,336
遼寧師範大学		105					188		58		48	399	48,754
大連医科大学							27		0	54	48	129	36,613
大連海事大学		28					4		16		48	96	86,412
大連理工大学		387					274		732		48	1,441	56,231
遼寧对外経貿学院		21					80		33		48	182	23,550
瀋陽師範大学					621	120	159		374	578	48	1,900	23,308
渤海大学						2,724	8,066		748	11,242	48	22,828	22,828
内蒙古大学					33				1,351	16	48	1,448	1,939
清華大学		164							485		48	697	67,304
北京大学				455	24	46	191		33	266	48	1,063	1,184
中国社会科学院					22				3	41	48	114	6,220
天津師範大学					1,726	222	2,222		90	147	48	4,455	32,384
山東大学				2,670	1,325	546	935		81	649	48	6,254	8,467
山東大学(威海)				114	3,752	207	1,864		241	722	48	6,948	10,787
華東師範大学				4,993	1,664	2,022	1,554		91	2,351	48	12,723	24,154
黄崗師範学院									86	701	48	835	835
西南政法大学					11,094						48	11,142	12,680
国際贈書中心					6,418		2,053			144	48	8,663	11,058
大連民族学院											35,521	35,521	35,521
天津外国語大学												0	0
北華大学												0	0
中国海洋大学												0	0
上海師範大学												0	0
上海交通大学	100				187			266	692		48	1,293	71,837
上海海事大学	5,692				10,513			3,796	535	6,123	48	26,707	68,915
南京大学	1,351				603			811	411	399	48	3,623	199,428
江南大学	1,354				309			192	14		48	1,917	195,297
寧波大学	173				250			405	541	258	48	1,675	93,046
蘭州大学	1,713				415			29	129		48	2,334	41,159
貴州大学	55				65				20		48	188	201,454
雲南大学	6,026				2,438			6,198	1,160	605	96	16,523	155,132
広西師範大学	112				122			107	269		48	658	108,743
牡丹江医学院												0	46,134
鷄西大学											48	48	78,759
東北林業大学											48	48	76,933
その他					758							758	43,769
寄贈合計冊数	19,211	2,408	15,293	18,437	55,983	8,222	26,847	21,652	10,824	28,695	37,441	245,013	3,250,488

(2) 逐次刊行物の寄贈

逐次刊行物の継続的な寄贈については、既提供者に継続提供を依頼し、その継続性の確保を図ったが、学術・研究雑誌の電子化の進展に伴う紙媒体としての雑誌提供の減少などにより、本年度の継続受入れ雑誌は大幅に減少した結果、本年度末現在で継続寄贈となっている逐次刊行物のタイトル数は約 900 種である。

4. 「笹川杯作文コンクール 2013」の開催

中国の若者の対日関心の喚起と対日理解の促進を図るため、当協会と人民中国雑誌社の共催により、中国全土の青年層を対象に日本をテーマとする日本語版の「作文コンクール」を次のとおり開催した。

なお、中国語版の「作文コンクール」及びこれに係る日本招聘は、日中情勢を考慮して中止した。

①実施機関：人民中国雑誌社（作文の募集、審査、広報等）

②テーマ：「中日の未来のために私たちができること」

③応募総数：1,727 点

5. 「図書寄贈式」の実施

①実施時期：2013 年 12 月 4 日（水）

②場 所：中国 雲南大学 報告庁

③内 容： 寄贈図書の活用促進と雲南大学との協力関係の強化を図るため、同大学への寄贈図書の寄贈式を実施した。また、これに併せて、講談社が当協会を通じて中国の 34 大学等に寄贈する合計 1 万冊余の図書の寄贈式も実施した。

6. 「笹川杯全国大学日本知識大会」の延期開催

日中情勢の影響により 2012 年度内開催を見送った「笹川杯全国大学日本知識大会」（当初、2012 年 10 月開催予定）を、次のとおり延期開催した。

①開催日：2013 年 5 月 18 日（予選）、19 日（決勝戦）

②場 所：中国人民大學

③参加者：参加 60 大学（選手各 3 名 180 名）

④内 容： 中国の若者の対日理解・関心の深化、寄贈図書の活用促進、日本語教育の振興を図るため、中国の大学の日本語学習者を対象として、日本知識と日本語能力を全国規模で検証する機会となる「大会」を開催し、団体戦では東華大学、個人戦では中国人民大學学生が優勝した。

7. 「笹川杯全国大学日本知識大会・作文コンクール優勝者日本招聘」の延期実施

日中情勢の影響により 2012 年度内開催を見送った「笹川杯全国大学日本知識大会・作文コンクール」（当初、2013 年 2 月実施予定）を、次のとおり延期実施した。

①実施時期：2013 年 7 月 24 日～2013 年 7 月 31 日（8 日間）

②訪問先：東京都、大阪府、京都府、沖縄県

③招聘者：合計 28 名

④内 容： 日中相互理解の深化と友好交流の促進を図るため、「知識大会」優勝者等と「作文コンクール」優勝者等を招聘し、「日中討論会」を始めとした各種日中交流イベントを開催すると

もに、日本文化の体験、地域行事への参加、訪問見学などの広範なプログラムを実施した。

8. 目標達成

(1) 図書の収集

日中関係が冷え込む中、日中緊張状態における民間交流の意義について各方面から多くの理解が得られ、約 171,500 冊の図書を収集した。これらの図書の提供者は各種図書館、出版社、企業、個人など 130 者に及ぶが、広範な提供者に国際貢献の機会、所蔵図書の有効活用機会、さらに日中関係について考えてもらう機会を提供することができた。

(2) 図書の寄贈

日中が緊張状態にあっても、本プロジェクトの寄贈図書に対する中国側の要望は強く、本年度内に合計 245,013 冊の図書を寄贈し、日本理解の深化、日本語学習の振興、日本文化や図書提供者の友好の伝播に貢献した。

中国の各寄贈先は、受贈にあたって 1 冊あたり 3.5~4.5 元（日本円：57~74 円）の手数料を支払っており、本年度の寄贈図書（合計 245,013 冊）に対して各大学等が支払った手数料は、日本円に換算して合計約 17,100,000 円になるが、これは寄贈図書のみならず日中文化交流としての当プロジェクトに対する中国側の評価の高さを裏付けるものである。

国際交流基金の 2012 年版調査によると、海外の大学の日本語教育上の問題点として最も高いポイントを示しているのは「教材不足」、次いで「情報不足」であるが、このことは中国においても同様である。当プロジェクトの寄贈図書は、日本語教育における最重要課題であるリソースの充実に繋がるものであり、中国の日本語教育の振興のみならず知日派の育成が図られた。

(3) 「笹川杯作文コンクール 2013」の開催

日中情勢の影響により多くの日中交流が停滞する中、日本語版の「コンクール」を開催し、中国全国の 135 大学（21 省、市、自治区）の日本語学習者等から 1,727 点の応募を得たが、作文の募集、優秀作品の公開により、日本語学習者のみならず広範な中国人に、日中関係について考える機会を提供することができた。また、日中緊張状態の中での「コンクール」開催は、日本語学習の学習目標のみならず励みと希望にもなった。

(4) 「図書寄贈式」等の実施

「図書寄贈式」は、防空識別圏の設定など日中関係の緊張が急激に高まった時期に実施したが、図書寄贈事業に係る日中の責任者、担当者、雲南大学学生が一堂に会し、寄贈図書の意義と今後の協力関係の強化を確認することにより、日中の友好気運を民間から盛り上げることができた。併せて開催した日本人講師による特別講演と質疑応答は、日本語専攻学生にとって、日本理解を深め日本語を実践する場のみならず日本語学習へのモチベーションを高める機会となった。

(5) 「笹川杯全国大学日本知識大会」の延期開催

日中情勢の影響により平成 24 年度の開催を見送った「大会」を、平成 25 年 5 月、「大会」史上過去最多となる 60 大学（選手：180 名）の参加を得て盛大に開催し、成功裏に終了したが、このことは、日中関係の緊迫化、日中交流の停滞と逆風下にある中国の日本語学習者にとって、日本語学習を継続していく上で大きな励みになったのみならず、民間レベルで日中交流の重要性、日本語人材としての使命を再確認する機会となった。

(6) 「笹川杯全国大学日本知識大会・作文コンクール優勝者日本招聘」の延期実施

日中関係のぎくしゃくした状態が続き、日中共同世論調査でも9割以上が“相手国に良くない印象”を持つという状況の中、“本音の交流”をキーワードに、100名近い日本側有志学生の参加を得て、幅広い交流プログラムを実施したが、両国の若者の相互理解の深化と友人関係の構築が図られた。

(7) 情報発信

中国の若者が作文に綴った日本への思いを、「人民中国」誌等を通じて広く発信することにより、日中関係が冷え込む中、中国の日本語学習者のみならず日中両国の人々に日本や日中関係について考える機会を提供することができた。

「図書寄贈式」についても、共同通信、人民日報、中国青年報社、人民中国雑誌社、雲南日報、春城晩報を始めとするマスコミ各社及び当協会を通じて日中両国に広範に報道され、図書寄贈事業の認知度の向上と日中民間交流の促進に繋がった。

日本招聘の一環として実施した日中交流イベントについては、日本の有志大学生組織が開設したfacebook、twitter とリンクして実施することにより、イベントの広範な周知と有志参加者の十分な確保が図られたのみならず、招聘成果の向上にも繋がった。